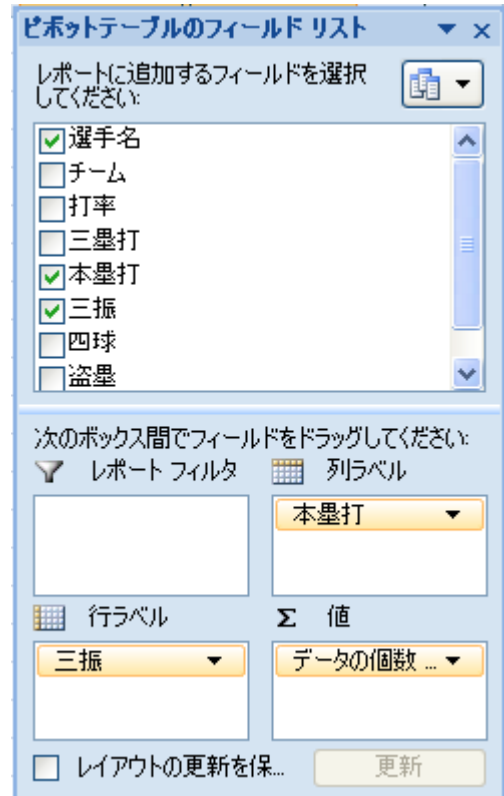


<2次元度数分布表についての補足>

前回実習したピボットテーブルの応用として、2次元度数分布表を作成する。打者成績のファイルを用い、本塁打数と三振数の関係を2次元度数分布表にまとめてみよう。

📖 手順

- ① まず、分割表にまとめるデータの範囲(ここでは、A1:I32)をドラッグし、ピボットテーブルのボタン(挿入タブにある)をクリックする。
- ② すると、「ピボットテーブルの作成」というウインドウが開くので、「ピボットテーブルレポートを配置する場所」として、「既存のワークシート」のボタンをクリックし、分割表を作成する左上のセルを指定する。
- ③ 右図のようなウインドウが開くので、「本塁打」をドラッグして「列ラベル」のところに、「三振」をドラッグして「行ラベル」のところに、「選手名」をドラッグして「値」のところにそれぞれ配置する。
- ④ この時点では、本塁打1本ごと(ただし度数のある者のみ)に集計されている。ここで、「本塁打」と書かれているセルをクリックし、「グループフィールド」のボタンをクリックする。(ない場合は、最上部に「ピボットテーブルツール」と出るのをクリックする)
- ⑤ そこで、「先頭の値」を0、「末尾の値」を49、「単位」を10とする(おそらくデフォルトでこうなっている) と、本塁打数が10本単位の階級で分類される。
- ⑥ 三振の方も、同様に「グループフィールド」のボタンをクリックし、「先頭の値」を20、「末尾の値」を159、「単位」を20とすると、下図のような2次元度数分布表が作成される。



データの個数 / 選手名	本塁打					総計
三振	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	
20-39	1					1
40-59	4		1			5
60-79	1	8	1	1		11
80-99	3	3			1	2
100-119				1		1
120-139			2			2
140-159				1	1	2
総計	9	11	4	4	3	31